令和6年度 狭山市立広瀬小学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から
			評価	説明	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A		<p>○学校教育目標である「よく考え行こう子、思いやりのある子、たくましい子」は、現代社会において子どもたちに必要な力を育む上で適切であると感じました。教育計画の内容も、目標達成に向けた具体的な取り組みが盛り込まれており、評価できます。</p> <p>○ホームページ・スクリレの充実で、目標が明確で、「4×9」での発信では、子どもたちの笑顔が素晴らしく、本当に学校生活が楽しく、子どもたちが学習に取り組んでいることがうかがえます。また、ICTの授業を拝見した時には、先生方が子どもたちの取り組みを配慮されていて、クラス・学年関係なく協力している姿勢が良い学習結果に表れると思います。学校の教育環境は絶対であるが、子どもと先生方との信頼関係は不可欠だと思います。信頼ができないと子どもたちは正直で、態度だけでなく学習の取り組みにも影響があると思います。</p>
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A	○学校教育目標・経営方針等について、教職員への周知が図られ、児童へも適切に指導が行われている。	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	B	○児童ファーストの考え方に基づき、職員会議等でも建設的な意見が出され、活発に議論が行われている。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	○施設の老朽化は見られるが、日々、点検・清掃に努めている。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心をもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	○市の委嘱を受けた学校課題研究によって、広小スタイルの学習の流れが定着しつつある。	<p>○基礎的基本的な学力・落ち着いた授業態度・家庭学習の習慣は分かりやすい授業を起点にして相互に関連し合っています。委嘱研究の取組・継続により学習が更に充実したものになっていくことを期待したいです。</p> <p>○授業参観に参加した際、教員が子どもたちの個性や発達段階に応じた指導を行っていると感じました。子どもたちは、意欲的に授業に参加し、活発な意見交換を行っていました。</p> <p>○地域人材を活用した体験学習や、地域イベントの参加など、地域全体で子どもたちを育てる体制が整っています。</p> <p>○今年度、タブレットを利用した情報モラル講座を行わせて頂きましたが、使用した学習の継続を今後、期待したいと思います。その中で、デジタルシチズンシップ教育が、子どもたちに身近なこととして、学習面でも取り組んでほしいと思います。</p>
	7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B	この取り組みが各種学力調査での結果に表れるよう、研究成果の継続と推進を行っていく。	
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	B	○学校課題研究等の推進に加え、日々の実践を通して「見合う」「学び合う」機会を計画的に設けている。	
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	B	○多くの児童が、英語活動に意欲的・積極的に取り組んでいる。	
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	A		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。	A		<p>○登下校時、校長先生をはじめ、先生方が子どもたちを見守りながら率先してあいさつをすることは、しぜんに子どもたちから進んであいさつをすることにつながるの、よいことだと思います。</p> <p>○学校外の生活においては、先生方の指導すべきことではなく、家庭・地域での見守り指導を発信していくことも考えてもよいのではないかと思います。</p> <p>○校内(組織)として、良い学年・学級にしよう取り組みができています。</p>
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができる。	B	○多くの児童が進んで挨拶をすることができている。	
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。	A	○きまりの遵守は、今後も重点課題である。	
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。	B	○児童への指導場面では、適切な言葉遣いとともに、児童の話を傾聴して児童が納得のいく伝え方が重要である。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	A	○夏季休業中を利用した体育指導技術の向上のための研修を、日々の体育指導に生かしている。	<p>○教職員アンケートにより健康・体力づくりにも努めていると思います。</p> <p>○コロナ禍以降、外遊びの減少とオンラインでの遊びの長時間から、体力はもちろん、子どもの視力低下も問われていますが、小学校だけの課題ではなく、家庭での生活も改善の必要です。でも、学校にいる時には、外遊びをしている子どもも多く、運動会の様子からは意欲的に取り組み、がんばっている姿が印象的でした。</p> <p>○教員が休み時間に外遊びを子どもと共にしていることで、「外遊びの習慣が身についた」と感じます。</p>
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	○保健指導・保健だより・保健掲示等を通して、児童に心身の健康の大切さを伝えている。	
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	A	○外遊びの励行などにより、体力向上に努めている。	
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	○スクリレ等を利用し、日々の子供の活動の情報発信に努めている。	<p>○公民館のサークル団体との学習は、学校で得られない体験の一助としては重要だと思います。本校では積極的に取り入れていました。</p> <p>○各学年、学級だよりや校長先生独自の教員に向けたよりは学校の様子がわかりやすいと感じました。</p>
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	○公民館や地域の活動との連携により、教育活動の中で多くの体験活動を実施している。	